# 「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 「放課後子ども教室」（宮城県気仙沼市）

### 取組の概要や経緯

保護者，地域住民等で組織された「月立小学校スクールサポータースタッフこだま隊」の参画を得て，令和2年度より気仙沼市立月立小学校で実施している。被災による影響が大きい本市において、放課後における子供たちの安心・安全な居場所を提供し，学習支援や体験活動支援を行うことで，学びを通した地域コミュニティづくり，地域全体で子供を育てる体制づくりにつなげている。また，中高生が運営に携わる機会を創出することで，地域の人材育成につなげている。

### 内容

- 放課後における児童への学習活動支援（宿題や自主学習の補助），交流活動支援（折り紙，工作活動等），スポーツ活動支援を週２回程度の頻度で実施した。
- 講師を招いてのバルーンアート講座，お楽しみクリスマス会，ブドウ園見学を開催した。
- 市担当職員による安全教室を開催した。
- 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を会場に，復興の担い手づくりに貢献すべく高校生の語り部ボランティアガイドの参画を得た体験学習を開催した。その際，語り部ボランティアガイドから，復興の担い手として児童に対しメッセージを送った。

### ポイント

- 児童，保護者，地域住民の参加型による持続可能な取組の推進
- 児童と運営スタッフとの良好な関係づくり・居場所づくりの推進
- 震災の教訓を風化させないための地域の文化施設を有効利用した防災学習の推進
- 運営スタッフ補助として，地域の中高生の運営参加の機会創出と人材育成

### 成果

| 実施回数 | 70回 |
|---|---|
| 延べ利用人数 | 777人 |
| 震災復興の担い手として地域貢献したいと考える児童の割合 | １００％ |

- 参加児童や運営スタッフが安定的に参加できており，安心・安全な居場所づくりにつながっている。
- 児童と地域人材とが関わる事業を実施したことで，世代間交流が行われ，地域の活性化とコミュニティの再構築につながった。
- より年代の近い中高生の参画を得て防災学習を実施したことで，参加児童は震災の教訓を今後の生活に活かそうとする意欲の醸成が見られるなど，震災復興に向けた担い手として地域貢献しようとする意識の醸成につなげることができた。

### 今後の方向性

- 週２回程度の開催を継続することで，安定的に安心・安全な居場所を提供する。
- 定期的な防災学習を実施することで，震災からの地域コミュニティ復興に向けた意欲の醸成，地域復興の担い手育成につなげる。
- 中学生や地域人材との異年齢交流の機会を設定することで地域コミュニティの活性化と協働による子育ての体制づくりを推進する。

# 「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」（宮城県多賀城市）

### 取組の概要や経緯

【放課後子ども教室】
平成20年度より事業を開始し、震災の影響で平成23年度に一時休止したが、平成23年7月より事業を再開した。放課後等に子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域住民の方々の参画を得て、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。

### 内容

・活動日時…授業終了後から午後４時３０分まで
・活動内容…学習（宿題等）、防災学習、季節に応じたものづくり、外遊び等
・イベント…プラバンづくり・クリスマスリースづくり・ニュースポーツ体験等

防災食育講座での調理体験と震災体験談

### ポイント

・コーディネーター中心に創意工夫をしながら、多様な体験活動を実施している。
・地域の高齢者グループ、大学生や高校生の協力を得ながら防災学習を実施している。
・大学と連携し、学生ボランティアの参加を促している。また、中学生と高校生にもボランティアの協力を得られた。
・わくわく通信を年に2回発行し、教職員や保護者に活動の様子を周知している。

災害時用のスリッパづくり

### 成果

実施できた学校の合計年間活動日数について、昨年度は１２０日に対して、今年度は２１６日と２倍弱となり、安全・安心な居場所と地域住民との交流の場を提供し、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進できた。
特に防災学習として、保存食を使用した防災食育講座を実施し、児童が地域の大人、大学生からや地域の高齢者から東日本大震災の話を聞く機会を設定したことで、地域と協働して児童の学びの環境をつくることができた。

| | R4 | R5 |
|---|---|---|
| 活動日数 | 120 | 216 |
| 児童参加数 | 1,455 | 5,301 |
| ボランティア参加数 | 835 | 1,647 |

### 今後の方向性

・地域のボランティアスタッフの技術向上のための研修や情報提供を行い、児童に多様な学びや体験活動を提供し、心豊かで健やかな児童を育成する。
・中・高・大学生や地域住民とのネットワーク（地域学校協働本部との連携）を広げ、協力体制を整えていくことで、交流活動の充実を図り、地域の活性化につなげる。

中学生との交流活動

# 「令和5年度子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 学びをとおして学校と地域が連携した復興の担い手づくり（宮城県丸森町）

### 取組の概要や経緯

①令和元年東日本台風による甚大な被害からの復旧復興が未だ途上であるため、心のケアを含め落ち着いて学べる学習環境を提供した。
②週末学び支援として「土曜学び塾」を実施し、学ぶ意欲を補完する場や心の居場所づくりを行った。
③「ふるさと学習」を実施し、郷土愛や地域づくりに関心を持たせた。
④「防災学習」を実施し、命を守る行動や地域復興への関心を持たせた。

### 内容

①学び支援コーディネーターが中心になり「土曜学び塾」を企画・運営し、３コース（算数、英語、苦手とっぱ）を設定しきめ細やかな学び支援、ふるさと学習、防災学習を実施した。
②ふるさと学習では、地域講師を招き「竹あかりづくり」を体験させた。
③防災学習では、東日本大震災を題材に様々な災害時に命を守る行動について理解させると共に、復旧・復興の現状を知ることで、ふるさと復興を担う子どもたちの育成に努めた。

### ポイント

①土曜学び塾では、地域人材の協力を得て子どもたちの落ち着いた学習環境を提供すると共に、東日本大震災以降減少した子どもたちの学習活動に地域人材が参画することで、地域コミュニティの復興を図る。
②ふるさと学習では、地域の講師による体験学習と過去の災害現場を見学することで、子どもたちが成果品を持ち帰り家庭内で共有しながら、東日本大震災をはじめとする災害と地域づくりへの思いを知る。
③防災学習では、災害現場と復旧・復興の現状を見学させることにより、東日本大震災をはじめとする災害から身を守る行動や、復旧・復興に取り組む方々の強い思いを感じさせる。

### 成果

①地域人材との関わりを通して落ち着いて学ぶことができる環境づくりを提供した。
（土曜学び塾：32回開設延べ478名参加、主体的参加84%、楽しく参加96%、集中できた96%）
②体験学習として、あぶくまの里山を守る会3名を講師に迎え、「竹あかりづくり」を作成した。（26名参加）
③防災学習を通して、災害の恐ろしさと様々な災害から命を守る行動について学んだ。
- やまもと語りべの会から講師に迎え、東日本大震災についての理解が深まった。
- 土曜学び塾の全体活動で、防災学習を3回実施し、東日本大震災を始めとする過去の災害から学んだ様々な危険から命を守る行動について学んだ。（延べ84名参加）
- 災害復旧対策専門官を講師に迎え、台風災害による地滑り現場を見学し、台風や地震による大規模自然災害の恐ろしさと災害からの復興について学んた。（26名参加）

### 今後の方向性

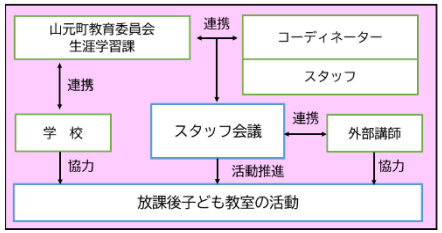
・学びの習慣化や心の居場所づくりに向け、地域の人々との関わりを深めるための活動を工夫する。
・郷土愛をはぐくむためふるさと体験学習等の内容を工夫する。
・防災学習を重点化し、防災キャンプ等の要素を取り入れながら、命をまもる行動や復興の担い手づくりをすすめる。

# 「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 「山元町放課後子ども教室推進事業」（宮城県山元町）

### 取組の概要や経緯

余裕教室や周辺施設を活用しながら、放課後の子供たちの活動を地域住民が見守り、地域住民と一体となったコミュニティの確立と異年齢の交流を推進する。また、子供たちが地域の大人と様々な体験をしながら、心豊かでたくましい人間形成を図ることにより、地域の小・中・高校生の担い手づくりにつなげていく。



はまっこキッズ　震災遺構中浜小学校見学

### 内容

○ はまっこキッズ（主な活動場所：山元町立坂元小学校）
- 毎週金曜日の14：30～16：00に、坂元小学校児童を対象として活動を進める。

○ みやまっこクラブ（主な活動場所：山元町立山下第一小学校）
- 毎週月曜日の14：45～16：00に、山下小学校・山下第一小学校・山下第二小学校児童を対象として活動を進める。

◎ 主な活動内容として、スタッフ間での創意工夫を生かした活動のほか、地域住民を講師に迎え、ニュースポーツ、生け花体験、防犯カルタ、民話、りんご狩り体験などを実施している。

また、震災遺構中浜小学校見学や、ジュニア・リーダーとともに防災について考える活動などを取り入れ、児童の防災意識を高めるとともに、中・高生の地域の担い手になろうという意識の高まりや育成についても意図しながら活動を行う。

みやまっこクラブ　生け花体験

### ポイント

① コーディネーター、スタッフが創意工夫をしながらバリエーションに富んだ活動を企画している。
② 地域の産業、伝統芸能、サークル活動などの地域素材にふれ、体験する活動を実施している。
③ 子供から大人までの異年齢の関わりにつながる地域コミュニティづくりの一助となっている。
④ 児童との関わりを通して、中・高生の担い手を育成し、地域づくりにつなげている。

### 成果

○ 放課後の児童の安全・安心な居場所づくりとなっており、様々な活動に意欲的に取り組む様子が多く見られる。

○ 児童の満足感がスタッフに伝わることで、スタッフのやりがいと次の活動への意欲の高まりが見られ、住民の生きがいづくり、地域づくりにつながっている。

○ 活動を重ねることで、異学年交流・世代間交流が広がりを生み、地域コミュニティづくりにつながっている。特に、ジュニア・リーダーの研修会と組み合わせ、中高生が小学生に伝承する活動を設定するなどした結果、活動後、中高生の次世代の担い手になろうという意欲の高まりが見られた。

### 今後の方向性

○ 上学年児童は6時間授業のために参加することが難しく、学校の活動と重なることもあるため、調整しながらより良い在り方を探っていく。

○ より多くの児童と地域住民が関わる機会を増やすために、町内全小学校で放課後子ども教室を実施する方法を模索していく。

○ ジュニア・リーダーとの関わりを取り入れることにより、多くの児童や中高生が、今後地域の担い手になろうという意欲を高める機会にしていく。

# 「子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 「令和5年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業（おながわ放課後楽校、まなびっこ）」（女川町）

### 取組の概要や経緯

地域住民や中・高校生を講師やボランティアとして活用し、生涯学習につながる学びや体験を提供するとともに、児童が安全・安心な放課後の時間を過ごせる居場所づくりを推進することを通して、震災後大きく変化した地域コミュニティの再構築と児童の豊かな人間性・社会性・未来の地域のリーダーとしての資質の素地を養うことを目的に本事業を実施している。

### 内容

教育局が、学校や地域住民等との連絡・企画調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある講座を提供し、放課後及び休日の活動を充実させている。本事業の特徴は、児童が主体的に宿題や外遊び、体験講座等を選択できること、また、中高生がボランティアとして参加していることである。 放課後楽校は平日（ほぼ毎日）、まなびっこは主に長期休業中や振替休業日に実施している。

講座の一例）

◆放課後楽校：キッズスポーツ、HIPHOPダンス、将棋道場、JLと遊ぼう（学ぼう）、獅子振り体験　等

◆まなびっこ：バレエ体験、苔玉づくり、料理教室、海の活動、ペタンク体験、凧づくり・凧あげ　等

### ポイント

① 一般社団法人まちとこ「女川向学館」や健康福祉課、鳴り砂を守る会、すばらしいおながわを創る協議会等、様々な団体と連携し、学びを提供。

② 地域人材（中・高校生を含む）を活用し、子供と関わりながら地域活性やコミュニティの構築、震災学習や、ジュニア・リーダーの実践の場（集団ゲーム、震災のミニ語り部）とする。

### 成果

放課後子供教室の特別講座やまなびっこの活動において、講師やボランティアとして、災害公営住宅に暮らしている方々１０名以上が参画し、生きがいの創出にもつながった。

ジュニア・リーダーが事前に震災についての講話を聴き、それをもとに小学生対象の「JLと学ぼう東日本大震災」の企画を実施した。震災遺構を見学しながら、ジュニア・リーダーがミニ語り部として震災の被害や命を守るための行動について説明するこの企画は、中・高校生にとっても震災を語り継ぐことの大切さを実感する意義のある活動となった。

【まなびっこ】地域の方とのグランドゴルフ

【放課後楽校】JLと学ぼう東日本大震災

### 今後の方向性

放課後楽校の特別講座だけでなく、平日の活動にも地域住民（主に保護者を想定）にボランティアとして参加うしてもらうための体制の整備が必要。

中・高校生の参画をジュニア・リーダーだけにとどめずに、「女川サポーター」のような形で登録制にしてネットワークを作ることができれば、多様な人材の継続した参画につなげることができる。

ボランティアについては、社会福祉協議会と連携して、より良い形を探っていく。